

応募結果

1. 概要

シーニックバイウェイ北海道推進協議会では、これまでにシーニックバイウェイルートとして6ルート指定、候補ルートとして3ルートを登録し、推進しているところ、この度、新たに「萌える天北オロロンルート」及び、2箇所の候補ルートの提案がありました。

(平成20年3月15日締め切り分)

2. 提案のあった3ルート

(1)シーニックバイウェイルート

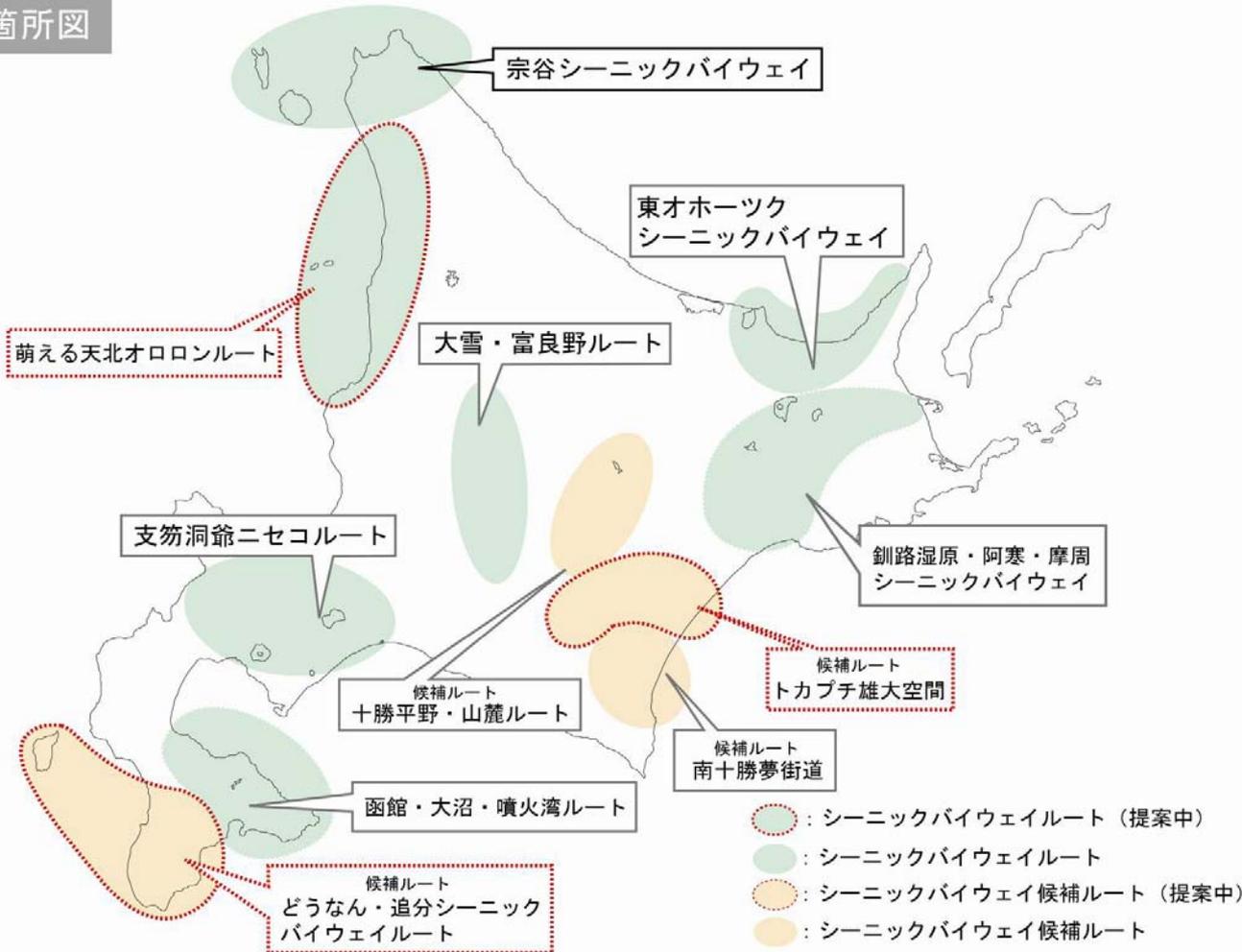
ルート名	萌える天北オロロンルート
申請月日	平成20年2月15日
関係市町村	増毛町、留萌市、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、幌延町(9市町村)
提案者	萌える天北オロロンルート運営代表者会議
代表者	西 大志(苫前商工会)
構成団体	36団体

(2)シーニックバイウェイ候補ルート

ルート名	どうなん・追分シーニックバイウェイルート
申請月日	平成20年3月8日
関係市町村	木古内町、知内町、福島町、松前町、上ノ国町、江差町、厚沢部町、乙部町、奥尻町(9町)
提案者	どうなん・追分シーニックバイウェイルート運営代表者会議
代表者	木元 護(木古内商工会長)
構成団体	30団体
ルート名	トカプチ雄大空間
申請月日	平成20年3月9日
関係市町村	帯広市、音更町、芽室町、幕別町、池田町、浦幌町、豊頃町(7市町)
提案者	トカプチ雄大空間ルート運営代表者会議
代表者	野村文吾(帯広商工会議所)
構成団体	27団体

シーニックバイウェイ北海道の提案ルート

ルート箇所図



1次指定ルート	平成17年5月9日	3ルート	<ul style="list-style-type: none"> ●支笏洞爺ニセコルート ●大雪・富良野ルート ●東オホーツクシーニックバイウェイ
2次指定ルート	平成18年4月18日	1ルート	<ul style="list-style-type: none"> ●宗谷シーニックバイウェイ
3次指定ルート	平成18年11月13日	2ルート	<ul style="list-style-type: none"> ●函館・大沼・噴火湾ルート ●釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ

- 【候補ルート登録】
- ◆第1次登録（平成17年5月9日）
 - 函館・大沼・噴火湾ルート
 - 釧路湿原・阿寒・摩周ルート
 - ◆第2次登録（平成18年4月18日）
 - 南十勝夢街道
 - 十勝平野・山麓ルート
 - 萌える天北オロロンルート

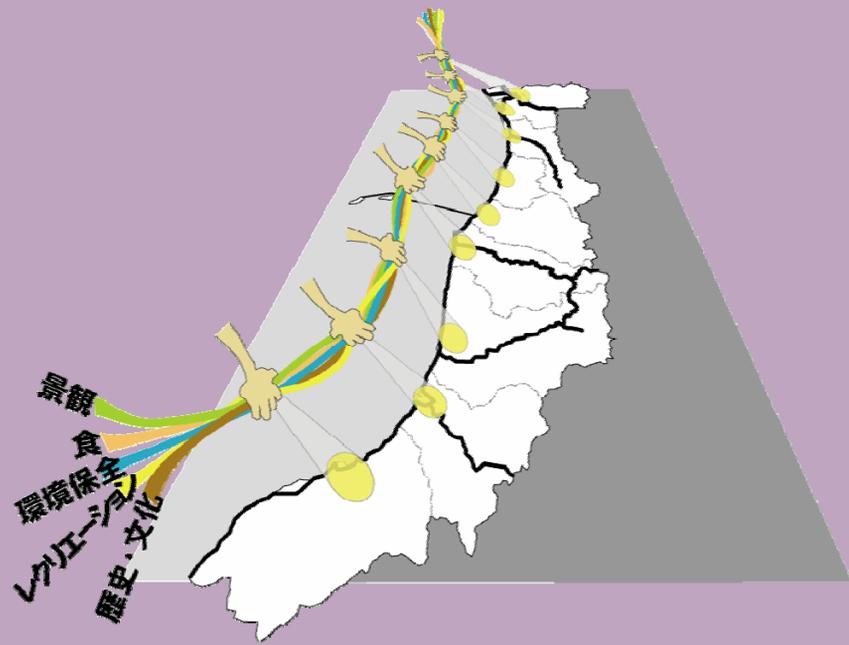
- （浅緑）：シーニックバイウェイルート（提案中）
- （中緑）：シーニックバイウェイルート
- （オレンジ）：シーニックバイウェイ候補ルート（提案中）
- （黄）：シーニックバイウェイ候補ルート

○ルート運営活動計画

1. 萌える天北オロロンルート

○ルート運営活動計画（骨子）

1. どうなん・追分シーニックバイウェイルート
2. トカプチ雄大空間



ルートストーリー



計画書P5~



Story 1 景観

愛着と誇りを持てる郷土の
景観の保全と創出

- 風景との出会いの演出
- 花とみどりの景観づくり
- 愛着と誇りの醸成

計画書P5



Story 2 食

自然の恩恵である地元食材
のブランド化と魅力の発信

- 地場産品の魅力づけ
- 新メニューの企画
- 地域ブランドの構築

計画書P9



Story 3 環境保全

地球に優しい『くらしぶり』
のお手本づくりと促進

- グリーンエネルギーのイメージづくり
- ゴミ対策の取り組み
- 身近な生態系の保全・復元

計画書P11



Story 4 レクリエーション

暮らしに根ざしたもてなしによる、暖かい
交流の魅力づくり

- ロングドライブのサポート
- 身近なアウトドアの紹介
- 各種カルチャー活動による交流

計画書P13



Story 5 歴史・文化

先代の暮らしぶりと新たな価値観を将来
に伝え楽しむ

- 歴史資源の保全と活用
- 次世代への歴史伝承
- 独自の生活文化の発信

計画書P15

プロジェクト

プロジェクトは、5つのストーリーに基づき構成する。
以下は、20年度に取り組むプロジェクト。



景観



食



環境
保全



レク



歴史
文化

計画書P26



フォトコンテスト プロジェクト

- ・ルート景観の発掘による地域の意識喚起
- ・観光来訪のための地域PR戦略の実行。



エゾカンゾウ植栽 プロジェクト

- ・人と人、人と自然との繋がりによる気候風土にふさわしい花の景観づくり



景観診断 プロジェクト

- ・活動団体が共有するルートイメージづくり
- ・ドライブ観光によるビジネス展開



菜種油・ヒマワリ クリーンエネルギー

- ・将来的なクリーンエネルギー製造とあわせたルート沿道における産業景観づくり



景観

レク

歴史
文化



景観

環境
保全

レク



景観

レク



景観

環境
保全

レク

プロジェクト

プロジェクトは、5つのストーリーに基づき構成する。
以下は、20年度に取り組むプロジェクト。



景観



食



環境
保全

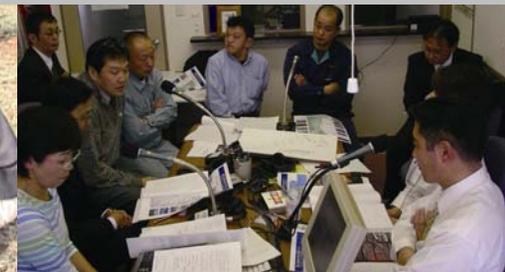


レク



歴史
文化

計画書P27



フォーラム開催 プロジェクト

食材オーナー制度 プロジェクト

萌天の森 プロジェクト

情報受発信 プロジェクト

・各種プロジェクトの取り組みを周知するとともに参加動機の拡大を図る。

・体験を通してルート内の海産物や農作物等の魅力を来訪者に知ってもらう。

・『森づくり』をきっかけにルートでの暮らしを通じて地球温暖化対策の機運を高める。

・ルート内外に様々な魅力を受発信するとともに、各種プロジェクトをバックアップする。



景観 食 環境
保全 レク 歴史
文化



食

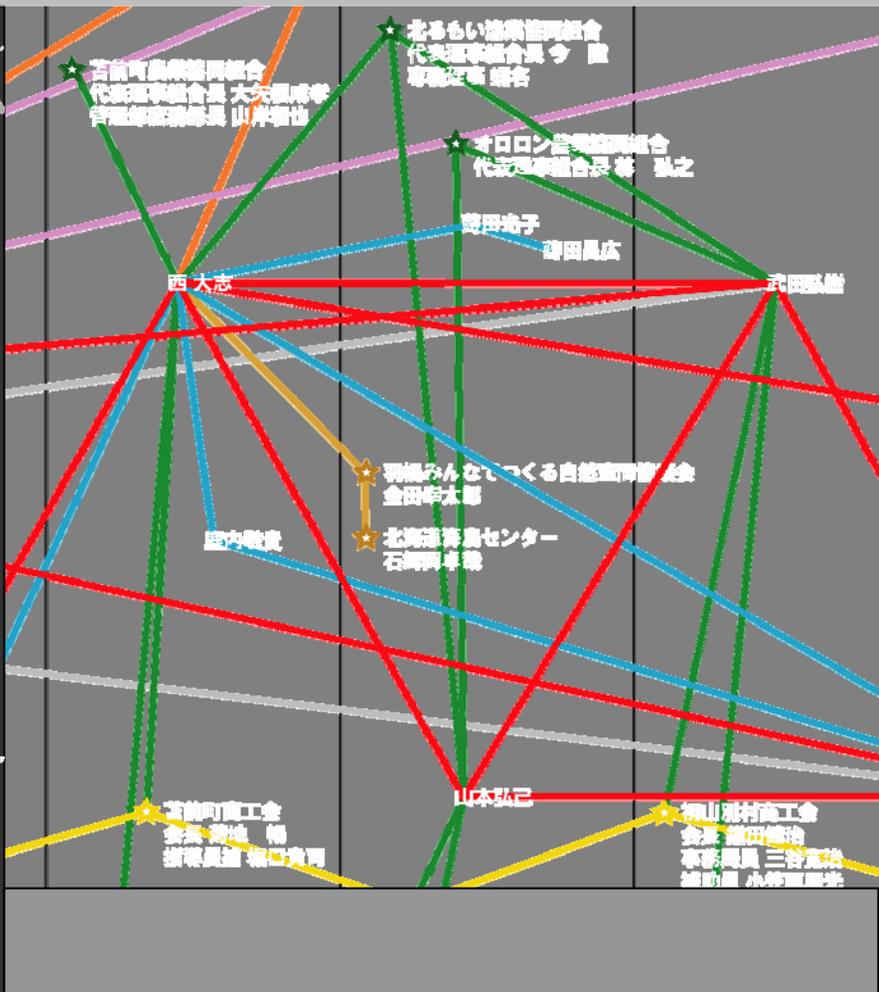
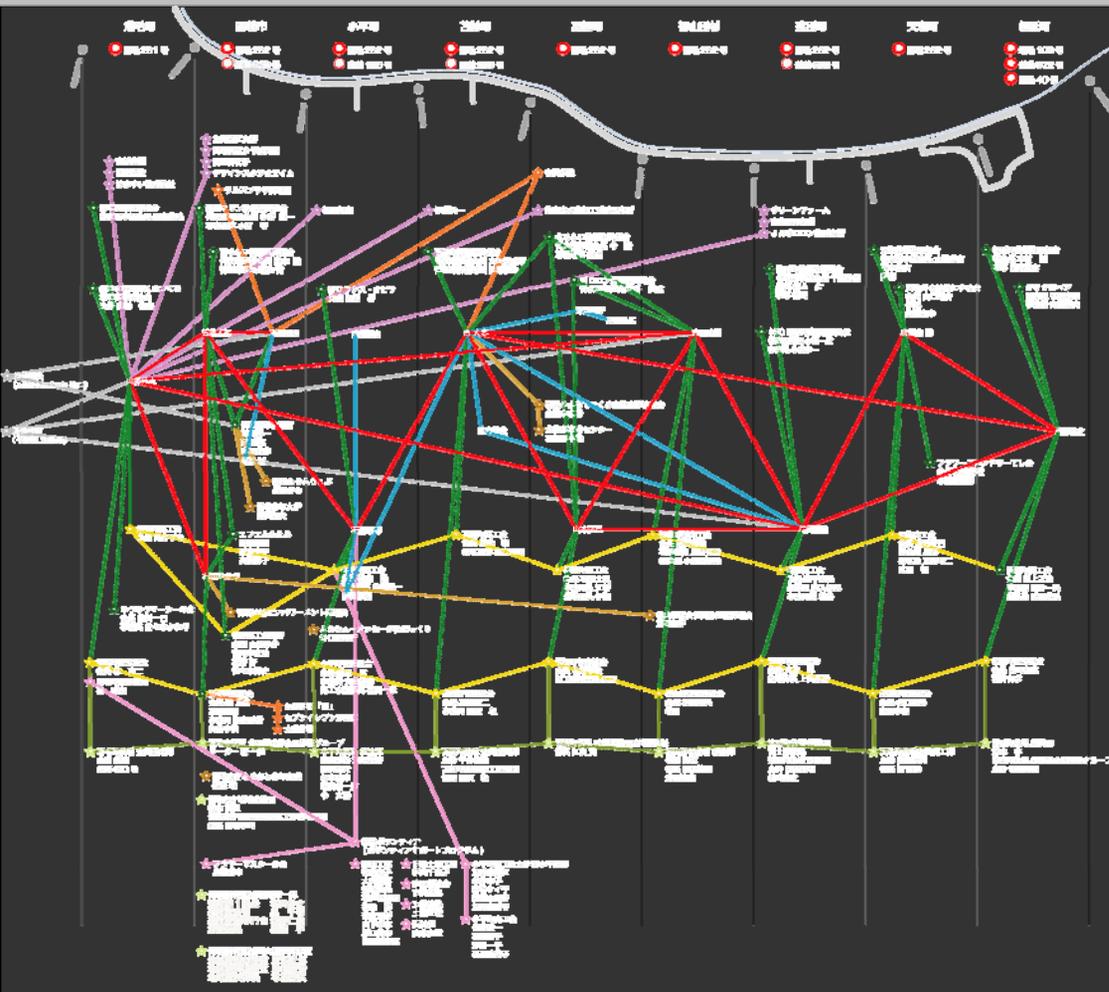


景観 環境
保全 レク



景観 食 環境
保全 レク 歴史
文化

活動団体（36団体）



(仮称)どうなん・追分
シーニックバイウエイルート
～汐風薫るいにしえの道～



OTOBE

ESASI ASSABU

OKUSIRI

KAMINOKUNI

連

MATUMAE SIRIUGHI

FUKUSIMA KIKONAI

北海道の歴史誕生の地である西渡島及び南檜山は、そこに生活する人々によって育まれた歴史や文化資源の宝庫となっている地域です。

また、津軽海峡や日本海の荒波によって形成された素朴な自然景観は四季折々の風情を魅せています。その風土から育まれた海と山の幸は新鮮美味であり、北海道の食を代表する地域でもあります。

平成20年5月

(仮称)どうなん・追分シーニックバイウエイルート

運営代表者会議



ルートのエリア

(仮称) どうなん・追分シーニックバイウエイルート

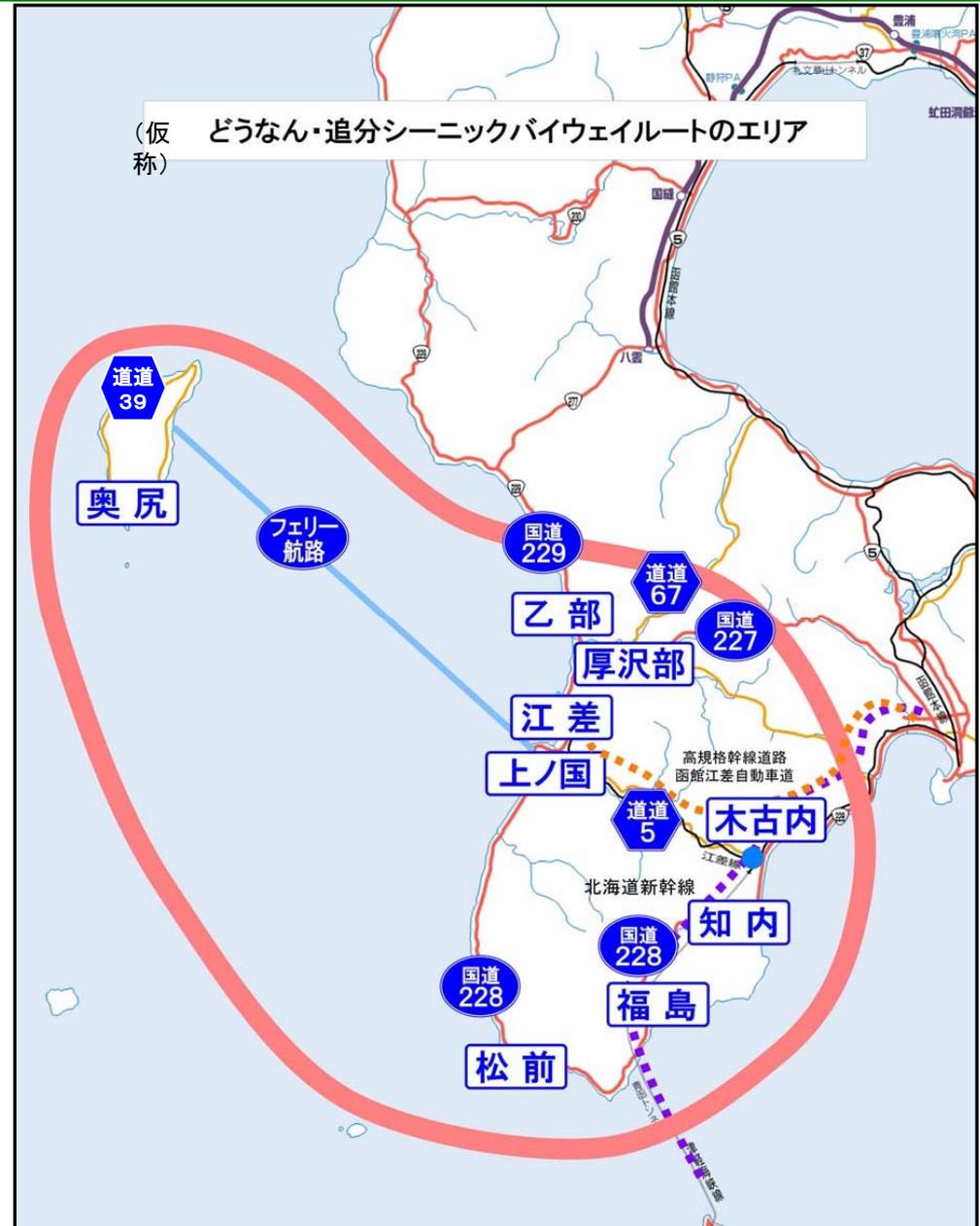
◇対象市町村

- ・木古内町
- ・知内町
- ・福島町
- ・松前町
- ・上ノ国町
- ・江差町
- ・厚沢部町
- ・乙部町
- ・奥尻町

対象市町村: 9町

◇対象となる主な幹線道路

- ・国道228号
- ・国道229号 **高規格幹線道路1路線**
- ・国道227号 **国道3路線及び道道3路線**
- ・道道江差木古内線 **他、フェリー航路**
- ・道道八雲厚沢部線 **もあります**
- ・道道奥尻島線
- ・江差奥尻間の海路
- ・函館江差自動車道



ルートの特性①

(仮称) どうなん・追分シーニックバイウェイルート

◇北の大地を創世する歴史資源(松前藩・箱館戦争)



官軍上陸跡地
(乙部町)



江差幕末物語
(江差町)



時代まつり
(松前町)



館城跡まつり
(厚沢部町)

◇語り継がれる巨木・銘木の森林資源



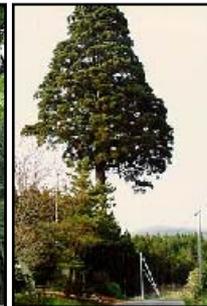
伝説の血脈桜
(松前町)



逆さ水松
(上ノ国町)



縁桂
(乙部町)



幸運の地蔵杉
(木古内町)



乳房檜
(福島町)



姥杉
(知内町)

◇自然が織りなす美しい景観資源



道の駅「ルート229元和台」
からの夕日(乙部町)



松前小島と夕日
(松前町)



青函トンネルメモリアルパーク
の朝日(福島町)



みそぎ浜の朝日
(木古内町)

◇伝統イベントや祭り文化



松前神楽と千軒そばの花見
(福島町)



北海道遺産姥神
大神宮渡御祭
(江差町)



館の岬
(乙部町)



咸臨丸の眠るサラキ岬
チューリップ花園
(木古内町)

(仮称)どうなん・追分シーニックバイウエイルート ルート運営代表者会議

※正会員(活動団体及び企業を含む事業所の代表者)と協力会員(個人)で構成される。

※参加団体数は30団体(平成20年3月8日現在)。

事務局

事務局長 1名
事務局 3名

役員

会長 1名
副会長 3名
監査 2名

◇各部会における活動団体の取組

関係行政機関

(オブザーバーとして参加)

	歴史・文化部会	景観・環境部会	食・観光部会	人材・情報部会
部長	かがり火コンサート実行委員会	江差歴まち商店街協同組合	フロンティア21	木古内町駅前中央商店街組合
副部長	江差追分会、上ノ国町商工会	木古内町観光協会	福島町千軒地域活性化実行委員会	福島町商工会
その他構成団体	咸臨丸とサラキ岬に夢みる会、松前観光協会、厚沢部町観光協会	知内商工会、福島町観光協会、山歩集団青い山脈、松前商工会、乙部町魚つき森づくり推進協議会、奥尻商工会	木古内商工会、きこない特産会、知内観光協会、江差観光コンベンション協会、上ノ国町観光協会、厚沢部商工会、奥尻島観光協会、函館バス(株)、NPO法人自然体験学校	江差商工会、NPO法人どうなん「学び」サポートセンター、南檜山・西渡島の新たなネットワークを支援する会(仮称)設立準備会

部会	活動方針	具体的な活動方策と内容
歴史・文化	歴史・文化を活かした誇りある地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ◆各地域を結ぶ歴史の道づくりの実施(歴史体感ウォークラリーなど) ◆道南の歴史を学び伝える学習講座の開催(定期的な歴史講座など) ◆道南の歴史や文化を正しく伝える広報活動の実施(歴史・文化の調査やパンフレット製作など)
景観・環境	美しい景観を活かした優しい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ◆各地域の隠れた景観資源の発掘(景観資源の診断・他ルートの景観や環境づくりの学習など) ◆各地域の景観資源や環境の保全と育成(育てる人や守る人の発掘・植樹活動・環境保全や美化運動の連携・エコツアーの実施など) ◆地域の資源景観や環境に関するPR活動の実施(景観散策ルートマップ・花の輪運動・IT活用・シーニックデッキやカフェなど)
食・観光	地域産業を活かした食や体験を楽しむ観光づくり	<ul style="list-style-type: none"> ◆各地域が連携した交流観光プログラムの作成(各地域イベントの連携と交流・オンパクとの連携・地域間交流観光など) ◆特徴ある地域産業を活かした体験観光の開発と受入態勢の構築(体験観光メニューづくり・NPO法人との連携・修学旅行誘致など) ◆地域産品を活かした食の開発と新たな観光ルートの構築(北の大地の弁当祭りやコンテスト・食パンフなど)
人材・情報	情報と人材を活かした輝く地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域を統括した情報発信の態勢づくり(ブログやHP開設・都市部へのプロモーション支援など) ◆地域の人材の発掘と活用(人材データベースの管理と活用など) ◆人材に関する後継者の育成(定期的な講習会の開催など)

シーニックバイウェイ北海道 候補ルート

トカプチ雄大空間

～自然の恵みと人の営みが織りなす開拓大地～
運営活動計画 骨子

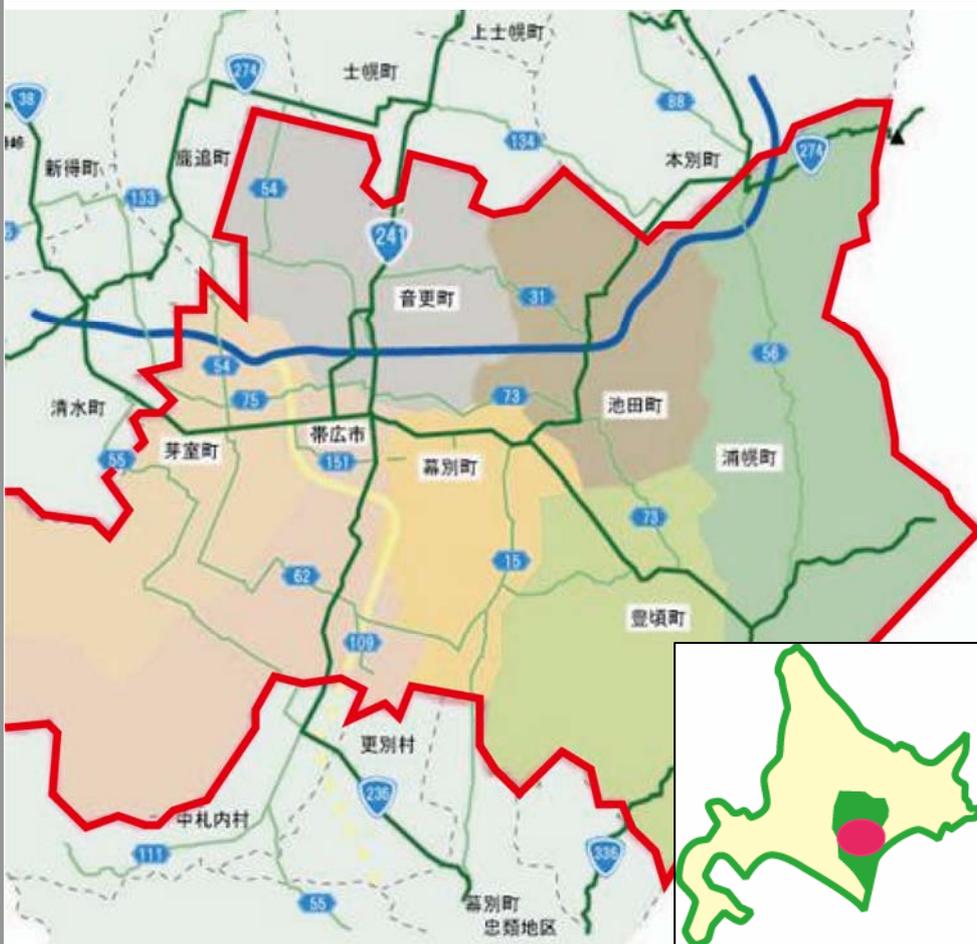
平成20年4月

トカプチ雄大空間 運営代表者会議
代表 野村 文吾



私たちが暮らすこの十勝には多くの情報や素材等があるにもかかわらず、いまだかつてそれを整理したものがありませんでした。今回、候補ルートの申請をするにあたり、独自色として帯広市の中心市街地を含めた1市6町村にお声かけをさせていただき、お会いした方々に取り組みを伺いました。その中で、十勝における観光振興の課題、まちづくりの課題、人づくりの課題は、全てこのシーニックバイウェイというツールを使えば解決できるのではないかと感じております。

北海道・十勝の空の玄関口である帯広市をはじめ、周辺の6町を含む十勝中部エリアは、中心に広大な十勝平野、西に日高山脈、東に太平洋という恵まれた資源を持ち、これらをつなぐ道東自動車道や高規格道路などの整備も年々進んでいることから、将来的な移動手段にも恵まれた地域です。



対象市町村

対象市町村: 1市6町

- 帯広市 (面積618.94km²・人口170,066人)
- 音更町 (面積466.09km²・人口44,404人)
- 芽室町 (面積513.91km²・人口19,239人)
- 幕別町 (忠類地区除く)(面積478.00km²・人口27,364人)
- 池田町 (面積371.91km²・人口8,195人)
- 浦幌町 (面積729.64km²・人口6,045人)
- 豊頃町 (面積536.52km²・人口3,780人)

対象となる主な幹線道路

- 道東自動車道
- 道道55号清水大樹線
- 帯広広尾自動車道
- 道道62号豊頃糠内芽室線
- 国道38号
- 道道73号帯広浦幌線
- 国道241号
- 道道75号帯広新得線
- 国道242号
- 高規格幹線道路2路線、国道5路線及び道道4路線
- 国道236号
- 国道336号

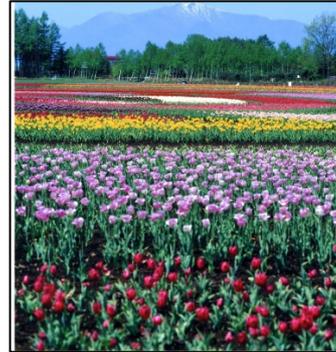
◆景観



十勝川と十勝平野
(音更町)



真鍋庭園
(帯広市)



紫竹ガーデン
(帯広市)



伏美湿原ミズバショウ
(芽室町)

◆自然



日本で唯一のモール温泉
(音更町十勝川温泉)

◆歴史、文化



ばんえい競馬
(帯広市)



帯広百年記念館
(帯広市)



幸福駅
(帯広市)

◆レクリエーション



北の屋台
(帯広市)



浦幌町森林公園
(浦幌町)



まきばの家
(池田町)



シープドッグショー
(池田町ボーヤファーム)



札内川親水公園
(幕別町)



十勝エコロジーパーク
(音更町)

トカプチ雄大空間 ルート運営活動団体代表者会議

代表／帯広商工会議所／野村文吾

参加団体数27団体

役員会

副代表／まきばの家／林秀康
監事／芽室町観光協会／鈴木健充
監事／北海道菓子工業組合帯広支部／田村昇

事務局

帯広商工会議所
事務局長／帯広デザイナーズ協会
松浦美穂子

楽しむ部会

部会長
ポーヤファーム
安西浩

癒し分科会

分科会長
十勝川温泉旅館組合
中津川武志
担当分野／温泉・宿泊
等

見る・遊ぶ分科会

分科会長
真鍋庭園苗畑
真鍋憲太郎
担当分野／景観・花・
アクティビティ等

知る部会

部会長
十勝馬文化を支える会
清原三枝子

歴史・文化分科会

分科会長
幕別歴史風土学研究会
藤原孟
担当分野／馬・開拓・
博物館等

味分科会

分科会長
北の起業広場協同組合
久保裕史
担当分野／農産物・北
の屋台・スイーツ等

感じる部会

部会長
とちか帯広デザイン振興協議会
金澤和彦

おもてなし分科会

分科会長
日本のうらほろ
小島裕充
担当分野／
企画・情報・研修

商工会議所・商工会=3団体
観光協会=3団体
NPO法人=5団体
組合=3団体
企業=6団体
業界団体=3団体
市民団体=4団体

1	帯広商工会議所	帯広市
2	十勝川温泉旅館組合	音更町
3	紫竹ガーデン遊華	帯広市
4	真鍋庭園苗畑	帯広市
5	株式会社まきばの家	池田町
6	株式会社ポーヤファーム	池田町
7	北の起業広場協同組合	帯広市
8	NPOとちか馬文化を支える会	帯広市
9	帯広デザイナーズ協会	帯広市
10	とちか帯広デザイン振興協議会	帯広市
11	帯広建設業協会(地域振興対策委員会)	帯広市
12	NPO幕別風土学研究会	幕別町
13	夢降夜運営委員会	帯広市
14	NPO十勝多自然ネット	帯広市
15	考えてまんねん	音更町
16	NPO日本のうらほろ	浦幌町
17	エクスクラメーション	帯広市
18	森の回廊@十勝	帯広市
19	NPO十勝まちづくり住の会	帯広市
20	府中エアサービス株式会社	帯広市
21	株式会社北海道ホープランド	幕別町
22	北海道菓子工業組合帯広支部	帯広市
23	幕別町商工会	幕別町
24	豊頃町商工会	豊頃町
25	(社)帯広観光コンベンション協会	帯広市
26	芽室町観光協会	芽室町
27	豊頃町観光協会	豊頃町

部会	活動方針	具体的な活動方策と内容
楽しむ部会	温泉・宿泊・景観・花・アクティビティを中心に、十勝の魅力ある施設の連携を図り、より楽しめるプログラムを構築	高速道路や高規格道路での景観ポイント発掘
		四次元軸としての遊覧飛行
		シーニックカフェ・シーニックデッキ
		十勝川温泉「日本で唯一のモール温泉」
		ガーデンアイランド北海道との連携、花と緑のスポット発掘
		次世代に向けての自然体験・教育体験活動(自然・環境)
		帯広市中心市街地活性化
知る部会	十勝の開拓や歴史の背景をたどり、十勝の自然の恵みを北の屋台や名産品を通して情報発信	「北の屋台」での情報発信
		「ばんえい競馬場」での情報発信
		開拓の歴史の発信
感じる部会	各部会との情報共有、研修会などを通じて、新たなイベント、ツアー、キャンペーンなどの企画をはじめ、情報センター設置、情報コンシェルジュを育成	サービス研修会・情報研修会の実施
		移動型情報ブース(センター)の検討
		情報コンシェルジュの育成
		パソコン用・携帯用ホームページ、メールマガジン発行
		各マスコミへの情報発信
		グッズ・おみやげの開発

平成20年3月19日

ルート審査委員会

審査結果

(1) シーニックバイウェイルート

① 萌える天北オロロンルート

視点 委員	1					2	3	4	推薦 可否	付帯意見
	景観	自然	文化	歴史	レク					
A	○	○	-	○	-	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・風景・景観と良質の食をパッケージにしたブランド化戦略。 ・行政・住民・企業との強い連携でのプロジェクト推進。 ・各地域の顔づくりと企画・運営・マネジメントの強化。 ・歴史文化の発掘と古老・子供を含めた人材育成と利活用、が必要。
B	○	○	-	-	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・先行の「宗谷」との連携に多大な可能性がある。
C	○	○	○	-	-	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・「気づき、発掘、育成」を継続的に行うことに期待。 ・ルート名は直訳では外国人には分からず、英語名を検討する必要がある。
D	○	○	○	-	-	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・日本離れした地域資源を活用したツーリズム・ルートとして期待。
E	○	○	○	-	-	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ルート名称の地域でのコンセンサスが必要。
F	○	○	-	-	-	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。

(2) シーニックバイウエイ候補ルート

① どうなん・追分シーニックバイウエイ

視 点 委 員	1					2	推 薦 可 否	付 帯 意 見
	景 観	自 然	文 化	歴 史	レ ク			
A	○	○	○	○	○	○	○	・特になし。
B	○	○	○	○	-	○	○	・特になし。
C	○	○	○	○	-	○	○	・特になし。
D	○	-	○	-	-	○	○	・留萌ルートとの類似点があり、差別化が必要。
E	○	-	○	○	-	△	○	・景観＋文化＋歴史＋食などの地域資源を、パッケージとして組み立ててゆくことと、その魅力の全国発信が重要。
F	○	○	○	○	-	○	△	・江差追分は著名だが、東京で「追分」というと通常は信濃追分を意味するため注意が必要。

② トカプチ雄大空間

視 点 委 員	1					2	推 薦 可 否	付 帯 意 見
	景 観	自 然	文 化	歴 史	レ ク			
A	○	○	-	○	-	○	○	・本ルート審査に向けて、他ルートとの連携の推進を強く期待。 ・「十勝」というゆったりとした雄大な空間、食糧基地という安心感をキーコンセプトに据えた観光アピールの充実強化が望まれる。
B	○	○	-	-	○	○	○	・指定ルート申請時にはトータル的に十勝ルートとしてのイメージ確立を期待。
C	○	○	-	-	○	○	○	・指定ルートの審査時までには、今後の方針を検討・決定することが望まれる。 ・ルート名が何を表しているのか、わかりづらく、指定ルート申請時までには、ルート名（英文名およびサブタイトル）の検討が望まれる。
D	○	○	-	○	-	○	○	・特になし。
E	○	○	-	-	-	○	○	・他の十勝2ルートとの関係の明確化が必要。
F	○	○	-	-	-	×	△	・あくまで十勝全体でのメッセージ性とブランド化、それを全国・東アジアに発信するという姿勢と行動が前提でなければ、地域間競争・国際競争には勝てない。

平成 20 年 3 月 19 日
ルート審査委員会

シーニックバイウェイルート審査委員会 意見

■シーニックバイウェイルート

◆萌える天北オロロンルートに対する意見

日本海の荒波、海岸線の美しさ、島の遠望、電柱や看板のない沿道、原野など、我が国に稀有な手つかずの景観が訪れる人を惹きつけ、非日常を求める観光客には日本人ばかりか外国人にも通用する景観を有している。

このような景観は全国的にも少なく、建物・看板等のルールづくり、広告物規制や景観法の活用も視野に景観保全・向上の取組に期待したい。

観光地として荒らされていない魅力があり、個人型の次世代観光に対応した、新たなツーリズムとしてオンリーワンの資源を中心に展開すれば、国際的な競争力を持つことも可能である。

独特の景観に加え、食の宝庫であり、森羅万象の自然現象も貴重な資源として活用し商品やサービスとしてメニュー化するとともに、物語性の充実、景観や環境、食をパッケージ化し全国・世界へ情報発信、旅行会社との連携などが望まれる。

「暮らしぶり」のテーマでは、日常の生活景と人々の生活の魅力のアピールとともに、ホスピタリティ豊かな地域住民が最大の資源となる。来訪者をお迎えする「おもてなし」について具体的に活動計画に反映するとともに、地域住民やコミュニティ全体を巻き込んだ活動となっていくことが望ましい。

札幌や旭川から宗谷地域に向かう観光周遊ルートとして活用される可能性が高く、「宗谷シーニックバイウェイ」との連携によるブランド化に向けた取組を期待したい。

道外、国外の地域づくりの事例を踏まえると成功のポイントとして、「自主性」「挑戦」「活動のネットワーク」「人材育成」「住民との連携」が挙げられる。

景観・環境意識の向上、歴史文化の発掘と古老・子供を含めた幅広い人材発掘・育成、地域資源を生かしたコミュニティビジネスの創出、継続的な参加者の募集や参加する各主体（住民、活動団体、市町村、道、国）による持続的な責任ある行動。これらに留意しつつ、地域に合ったスピードで具体的な活動を展開していくとともに、今後の活動が地域全体の活動となっていくことが望ましい。

今後も、候補ルート期間内に深めた活動の連携と質の向上を継続させ、力強い地域の一体感の醸成を進められたい。

■シーニックバイウェイ候補ルート

◆シーニックバイウェイ候補ルート全体に対する意見

今後、運営体制の強化、人材発掘・育成、地域資源の発掘・活用、活動団体や関連団体との連携・協働のあり方などについての議論と合意形成等の取り組みや、活動団体同士や行政、地域産業と連携した取り組みが重要である。

また、参加者がシーニックバイウェイの趣旨を十分に理解し、ルート全体での理念・目標・活動指針を明確にし、共有化を幅広く図る努力が必要である。

◇どうなん・追分シーニックバイウェイ

外部評価やアドバイザーの採用等により地域資源を再発掘するとともに、道外からの来訪者の視点に立って既存の観光を見直し、総合的な戦略を検討する必要がある。

「北海道発祥の地」を意識した歴史・文化・景観資源の再評価と幅広い人材の発掘・育成により、全国の先進事例も参考に、地域の個性を生かした新たなツーリズムの検討が必要である。

将来的には、函館、青森などとの連携も視野に入れたルートのブランド化に向けた広範な工夫が必要である。

さらなる活動団体や関連団体との連携・協働のあり方などについて、具体的な活動・行動計画のもと議論と合意形成等に取り組むとともに、目に見える活動と成果により、参加者の意識の共有を幅広く図る必要がある。

◇トカプチ雄大空間

雄大な十勝平野の特徴を有するルートだが、全国・東アジアレベルで評価されている景観等の地域資源は十勝全域に共有するもので、ルートの範囲とその限定方法に必然性が感じられず、国内・国外からの観光周遊ルートを具体的に描いた上でルートの範囲の見直しが必要である。

上記見直しに際しては、「十勝平野・山麓ルート」、「南十勝夢街道」との連携や差別化等、ルートのあり方についての議論と合意形成が必要である。

ルート全体での理念・目標・活動指針を明確にし、活動団体や関連団体との連携・協働のあり方などについての議論と合意形成等に取り組み、具体的な活動・行動計画のもと参加者の意識の共有を幅広く図る必要がある。

■その他

第2次ルート提案に対する審査委員会意見について、下記の通り追記する。

□シーニックバイウェイ候補ルート

◇南十勝夢街道

十勝平野・山麓ルート、トカプチ雄大空間との連携や差別化、襟裳岬地区とのコラボレーション等、ルートのあり方についての議論と合意形成が必要である。

農村文化と都市との関係、地域で開催されるイベントとの連携活動等を、どのように展開していくのか検討されたい。

さらなる運営体制の強化、人材の発掘・育成、活動団体や関連団体との連携・協働のあり方などについての議論と合意形成等に取り組むとともに、ルート全体での理念・目標・活動指針を明確にし、参加者の意識の共有を幅広く図る必要がある。

◇十勝平野・山麓ルート

南十勝夢街道、トカプチ雄大空間との連携や差別化、また、他のシーニックバイウェイルートとの繋がりや差別化を考えたルートのあり方についての議論と合意形成が必要である。

大規模農地と山脈がおりなす北海道らしい景観資源を活用し、滞在地としての優位性をアピールする工夫が必要である。

シーニックバイウェイルート指定等について（案）

平成 20 年 5 月 12 日
シーニックバイウェイ北海道推進協議会

シーニックバイウェイ北海道実施要綱第 18 条第一項及び第二項の規定に基づき、次のとおりシーニックバイウェイルート指定を行う。

○ルート名：萌える天北オロロンルート

関係市町村：増毛町、留萌市、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、幌延町（9 市町村）

提案者：萌える天北オロロンルート運営代表者会議

また、シーニックバイウェイ北海道推進の基本方針に基づき、シーニックバイウェイ北海道実施要綱第 18 条第一項及び第二項の規定に準じて、次のとおりシーニックバイウェイ候補ルートの登録を行う。

○ルート名：どうなん・追分シーニックバイウェイルート

関係市町村：木古内町、知内町、福島町、松前町、上ノ国町、江差町、厚沢部町、乙部町、奥尻町（9 町）

提案者：どうなん・追分シーニックバイウェイルート運営代表者会議

○ルート名：トカプチ雄大空間

関係市町村：帯広市、音更町、芽室町、幕別町、池田町、浦幌町、豊頃町（7 市町）

提案者：トカプチ雄大空間ルート運営代表者会議

なお、上記指定・登録を行うにあたって、別紙の通り意見を付記する。

シーニックバイウェイ北海道推進協議会 意見（案）

■シーニックバイウェイルート

◆萌える天北オロロンルートに対する意見

日本海の荒波、海岸線の美しさ、島の遠望、電柱や看板のない沿道、原野など、我が国に稀有な手つかずの景観が訪れる人を惹きつけ、非日常を求める観光客には日本人ばかりか外国人にも通用する景観を有している。

このような景観は全国的にも少なく、建物・看板等のルールづくり、広告物規制や景観法の活用も視野に景観保全・向上の取組に期待したい。

観光地として荒らされていない魅力があり、個人型の次世代観光に対応した、新たなツーリズムとしてオンリーワンの資源を中心に展開すれば、国際的な競争力を持つことも可能である。

独特の景観に加え、食の宝庫であり、森羅万象の自然現象も貴重な資源として活用し商品やサービスとしてメニュー化するとともに、物語性の充実、景観や環境、食をパッケージ化し全国・世界へ情報発信、旅行会社との連携などが望まれる。

「暮らしぶり」のテーマでは、日常の生活景と人々の生活の魅力のアピールとともに、ホスピタリティ豊かな地域住民が最大の資源となる。来訪者をお迎えする「おもてなし」について具体的に活動計画に反映するとともに、地域住民やコミュニティ全体を巻き込んだ活動となっていくことが望ましい。

札幌や旭川から宗谷地域に向かう観光周遊ルートとして活用される可能性が高く、「宗谷シーニックバイウェイ」との連携によるブランド化に向けた取組を期待したい。また、道外客や外国人も意識した分かりやすいルート名の愛称が望まれる。

道外、国外の地域づくりの事例を踏まえると成功のポイントとして、「自主性」「挑戦」「活動のネットワーク」「人材育成」「住民との連携」が挙げられる。

景観・環境意識の向上、歴史文化の発掘と古老・子供を含めた幅広い人材発掘・育成、地域資源を生かしたコミュニティビジネスの創出、継続的な参加者の募集や参加する各主体（住民、活動団体、市町村、道、国）による持続的な責任ある行動。これらに留意しつつ、地域に合ったスピードで具体的な活動を展開していくとともに、今後の活動が地域全体の活動となっていくことが望ましい。

今後も、候補ルート期間内に深めた活動の連携と質の向上を継続させ、力強い地域の一体感の醸成を進められたい。

■シーニックバイウェイ候補ルート

◆シーニックバイウェイ候補ルート全体に対する意見

今後、運営体制の強化、人材発掘・育成、地域資源の発掘・活用、活動団体や関連団体との連携・協働のあり方などについての議論と合意形成等の取り組みや、活動団体同士や行政、地域産業と連携した取り組みが重要である。

また、参加者がシーニックバイウェイの趣旨を十分に理解し、ルート全体での理念・目標・活動指針を明確にし、共有化を幅広く図る努力が必要である。

◇どうなん・追分シーニックバイウェイ

外部評価やアドバイザーの採用等により地域資源を再発掘するとともに、道外からの来訪者の視点に立って既存の観光を見直し、総合的な戦略を検討する必要がある。

「北海道発祥の地」を意識した歴史・文化・景観資源の再評価と幅広い人材の発掘・育成により、全国の先進事例も参考に、地域の個性を生かした新たなツーリズムの検討が必要である。

将来的には、函館、青森などとの連携も視野に入れたルートのブランド化に向けた広範な工夫が必要である。

さらなる活動団体や関連団体との連携・協働のあり方などについて、具体的な活動・行動計画のもと議論と合意形成等に取り組むとともに、目に見える活動と成果により、参加者の意識の共有を幅広く図る必要がある。

また、ルート名について、道外や外国人も意識して地域名と一致するような分かりやすい名称を検討する必要がある。

◇トカプチ雄大空間

雄大な十勝平野の特徴を有するルートだが、全国・東アジアレベルで評価されている景観等の地域資源は十勝全域に共有するもので、ルートの範囲とその限定方法に必然性が感じられず、国内・国外からの観光周遊ルートを具体的に描いた上でルートの範囲の見直しが必要である。

上記見直しに際しては、「十勝平野・山麓ルート」、「南十勝夢街道」との連携や差別化等、ルートのあり方についての議論と合意形成が必要である。

ルート全体での理念・目標・活動指針を明確にし、活動団体や関連団体との連携・協働のあり方などについての議論と合意形成等に取り組み、具体的な活動・行動計画のもと参加者の意識の共有を幅広く図る必要がある。

また、ルート名について、道外や外国人も意識して地域名と一致するような分かりやすい名称を検討する必要がある。

■その他

第2次ルート提案に対する審査委員会意見について、下記の通り追記する。

□シーニックバイウェイ候補ルート

◇南十勝夢街道

十勝平野・山麓ルート、トカプチ雄大空間との連携や差別化、襟裳岬地区とのコラボレーション等、ルートのあり方についての議論と合意形成が必要である。

農村文化と都市との関係、地域で開催されるイベントとの連携活動等を、どのように展開していくのか検討されたい。

さらなる運営体制の強化、人材の発掘・育成、活動団体や関連団体との連携・協働のあり方などについての議論と合意形成等に取り組むとともに、ルート全体での理念・目標・活動指針を明確にし、参加者の意識の共有を幅広く図る必要がある。

◇十勝平野・山麓ルート

南十勝夢街道、トカプチ雄大空間との連携や差別化、また、他のシーニックバイウェイルートとの繋がりや差別化を考えたルートのあり方についての議論と合意形成が必要である。

大規模農地と山脈がおりなす北海道らしい景観資源を活用し、滞在地としての優位性をアピールする工夫が必要である。

シーニックバイウエイルート指定の審議に係る関係機関の意見

<p>①萌える天北オロロンルート</p>
<p>名称で地域が想像できない。昔、国鉄で「天北線」がありましたが、現在では天北のイメージが分からない。 段々、増えてくるのでネーミングに地域名と一致するように願いたい。多くの自治体がかかわるが、ここは広域観光を活かす工夫を願いたい。天北は、天塩と北見から取ったもののようです。</p> <p>地域の皆様の自発的な活動を通じ、沿線の魅力ある地域づくりに寄与されることを期待します。</p>
<p>②どうなん・追分シーニックバイウエイルート（候補ルート）</p>
<p>上記と同じく追分が問題と思います。一考を……。分かりやすい親しみやすい名称を。江差追分は分かりますが、少し無理では……。</p> <p>地域の皆様のさらなる自発的な活動を通じ、沿線の魅力ある地域づくりに寄与されることを期待します。</p>
<p>③トカプチ雄大空間（候補ルート）</p>
<p>全く名称と地名のイメージが沸きません。十勝ワインもトカップなどにしてから売れなくなりました。</p> <p>地域の皆様のさらなる自発的な活動を通じ、沿線の魅力ある地域づくりに寄与されることを期待します。</p>
<p>その他</p>
<p>今回の指定により、シーニックバイウエイルート指定ルートの関係市町村は57市町村となり、候補ルートの関係市町村を含めると82市町村となります。 全道180市町村の内、46%がシーニックバイウェイに関係することとなり、関係市町村の増加により、シーニックバイウェイであることの選択性・優位性が薄れていく事を懸念します。</p>